

鏡野万葉のみち青少年文芸選奨・香々美川文芸選奨

第23回鏡野万葉のみち青少年文芸選奨と第13回香々美川文芸選奨に
よせられた多くの作品の中から入賞者が決定しました。(敬称略)

現代詩の部

〔小学生の部〕

《入選》 該当なし

《佳作》

鶴喜小学校四年 宗川 彰毅

さか上がりができた

いとこのそうまがさか上がりをする
そうまのするところを見ていたら、
ぶりをつけずに

ひよいとさか上がりをした

ほくも早くしたい
そうまの母ちゃんやばくの母ちゃんに
教えてもらって、

もうとつくくした

親指の皮がぐちよつとうげた
まめがいたい

あせでびしょびしょになった

「手をまげて」

「しっかりとけって」

「もっとけって」

「体をのばさんように」

つかれたら、ゆるるベンチで休んだり

ジュースを飲んだりして

いっぱいいっぱい練習をした

「もうちょっとでできるけえ

頭の中で整理してやってみ」

言われるとおり二、三回やっていたら、

クルッ

やったあ、できたあ

みんなで喜んだ

第二十三回 鏡野万葉のみち 青少年文芸選奨入賞作品

《宇佐見賞》

鶴喜小学校四年 池田 龍二

虫

クワガタムシ

りっぱなつ

ぎざぎざしている体

つやつやしている体

相手を見るために動くしよっ角

広げると大きくてりっぱな羽

クワガタムシの

どこをとっても

ほくは、だーい好き

カブトムシ

りっぱなつ、大きな大きなからだ、

その大きなつので、

クワガタムシを投げとばす

太い木につかまったら、

みつをだれにも、わたさない

本当に、虫の王者だ

〔中学生の部〕

《入選》 該当なし

《佳作》

上齋原中学校二年 藤木

玲

負けるもんか

あと一点取られたら負けだ

ラケットをにぎりしめた私は、

心の中でさげんだ

負けてたまるか

目の前には

三年生の強いペアー

絶対負けたくない

早有未ちゃんも思ってる

最初に決めていた

気持ちで絶対に負けないと

以前の私と早有未ちゃんなら

負けてた

でも今日はちがう

ここまできたなら勝ちたい

それしか頭がない

一点返した

大きい声で喜んだ

また返した

デュースだ

相手ペアーにいいコースをねらわれた

私は、一歩も足が動かなかった

負けた

そう思った

でも今日は、運まで味方だった

「アウト」

喜びと驚きが

一緒にでてきた

あとは最後の力をふりしぼって

つっぱした

私が打ったボールがいいコースに入った

相手はとれなかった

「ゲームセット」

「やったー勝った」

今までで一番大きい声だった

早有未ちゃんと手をにぎり合って

「ありがとう」

それしか言葉が見つからなかった

私は、今にも泣きそうだった

うれしすぎて

喜んでいてというよりは

さげんでいた

ついにこのゲームをとることができた

さあここから勝負だ

「ここまできたなら勝とう」

早有未ちゃんとの約束

「ゲームカウントツーオールファイナルゲーム」

いよいよ最後の戦いが始まった

とっくに体力の限界は超えていた

ラリーが終わるごとに

しゃがまずにはいられなかった

その時私を動かしていたのは

勝ちたいという気持ちだけだった

でも相手も強い

そう簡単には勝てなかった

あと一点で終わりのところまで

追いつめられた

「勝った」

うれしくて、うれしくて

えらいことなんか忘れて

とびつきの笑顔で

テニスコートを後にした

《宇佐見賞》

富中学校三年 松葉 優美

虹

二人で一緒に見た虹

今も君はおぼえているだろうか

僕はおぼえてる

大きな青空にきれいにかかった大きな虹

それはきつと僕らにも絆という

虹をかけてくれただろう

一緒に笑ったり泣いたり

時にはケンカもした

だけどすぐ仲直りして

いつも一緒だった

気が付くと僕にとって君は友達以上の

かけがえのないものとなっていた

これから先 ずっと一緒に歩こう

あの日見た大きくきれいな虹に

負けないくらい虹を僕らの心につけよう

世界一の虹を

誰にも負けない虹を

〔青年の部〕

応募なし